

八王子市市史編さん室だより

稲荷山通信 第11号

発行日:2013(平成25)年10月1日
発行者:八王子市 市史編さん室
〒193-0943 八王子市寺田町1455-3
TEL 042(666)1511 FAX 042(666)1512



『新八王子市史』資料編1 原始・古代及び 資料編3 近世1などを刊行しました!

市制施行100周年に向けて進めている市史編さん事業の成果として、『新八王子市史』資料編1 原始・古代及び資料編3 近世1などを刊行しました。

資料編1 原始・古代は、旧石器時代から平安時代までの延べ166の主要な遺跡について、カラー写真や図版を豊富に用いて紹介しています。

資料編3 近世1は、現在の八王子のまちの原型が形作られた近世一江戸時代の資料を、今回の市史編さんの過程で初めて発見された資料も含めて567点掲載しています。

このほかにも『八王子市東部地域 由木の民俗』(新八王子市史民俗調査報告書 第2集)、『八王子市史研究』第3号を刊行しました。(詳細は次頁をご覧ください。)

Contents

- 『新八王子市史』資料編を刊行しました! 1
- 平成24年度 刊行物のごあんない/書店での販売も開始しました 2
- 市民講座を開催します/「いちょう塾」に講座を提供しました 3
- 専門部会の主な活動(平成24年9月から25年7月まで) 4・5
- 受贈図書・資料(平成24年8月16日から25年8月15日まで) 5
- 〈地域からの声〉⑥ 八王子市上恩方町 草木照義さん 6
- チャレンジインターンシップ体験記 水谷啓太 7
- 職員の異動 7
- 歴史の窓⑪ 聞き取り調査からたどる近世の洪水 鈴木直樹 8

東京初の中核市へ
八王子が変わります!

平成24年度 刊行物のご案内

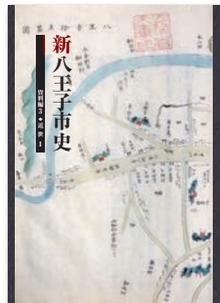
市史編さん室では、今後、様々な刊行物を販売していきます。24年度は下記の刊行物を販売開始しましたので紹介します。

『新八王子市史』資料編1 原始・古代



A4判
702頁
5000円

『新八王子市史』資料編3 近世1



A5判
990頁
3000円

『八王子市史研究』第3号



A5判
163頁
500円

『八王子市東部地域 由木の民俗』 (新八王子市史民俗調査報告書 第2集)



A4判
357頁
1000円

平成25年度

の

刊行予定

- ・『新八王子市史』自然編 A4判
- ・『新八王子市史』資料編2 中世 A5判
- ・『新八王子市史』資料編6 近現代2 A5判
- ・『八王子市史研究』第4号 A5判
- ・『聞書 織物の技と生業(仮題)』 A5判
- ・『検地帳集成』 A5判

書店での販売も開始しました

平成25年6月から、八王子市内の4つの書店で、市史編さん室で刊行している書籍の販売を開始しました。購入方法の詳細は下記をご覧ください。

①書店もしくは市の施設で直接購入をご希望の場合

くまざわ書店八王子店 (JR 八王子駅北口・☎042-625-1201) 石森書店 (四谷交差点デニーズ横・☎042-623-0495) 磯間書店 (JR 西八王子駅北口・☎042-661-1656) ブックランド島村書店 (JR 西八王子駅南口・☎042-661-6823) 八王子市役所1階・市政資料室(元本郷町) 八王子市郷土資料館(上野町) 八王子駅南口総合事務所(JR 八王子駅) 八王子市市史編さん室(寺田町)

※『由木の民俗』は由木・由木東・南大沢事務所でも販売しています。『恩方の民俗』は恩方事務所でも販売しています。『村明細帳集成』は八王子駅南口総合事務所での販売はありません。

②郵送での購入をご希望の場合

市史編さん室のみの取扱いとなります。ご希望の刊行物名と冊数、送付先、お名前、電話番号を明記し、書籍代金の総額(郵便局で購入した「定額小為替」か、現金の場合には現金書留で)と送料(書籍を入れた荷物の重さで送料が決まります)分の切手を同封し、

〒193-0943 八王子市寺田町1455-3 八王子市市史編さん室 までお送りください。

なお、送料などご不明な点は、市史編さん室(☎042-666-1511)へお気軽にお問い合わせください。

市民講座を開催します

■ 『新八王子市史』を読み解く ■

これまでに『新八王子市史』資料編を3冊刊行いたしました。これらの刊行物をもとに「『新八王子市史』を読み解く」と題し、下記のテーマで講座を開催します。

日 程：平成25年12月10・17・24日

全3回(毎週火曜日)

時 間：午後2時～4時

会 場：生涯学習センター

クリエイイトホール5階 ホール

対 象：どなたでも(要事前申込)

定 員：230名(応募多数の場合抽選)

受講料：600円

日程	テーマ	講師
第1回 12月10日	原始・古代	市史編集専門部会原始・古代部会専門調査員 創価大学非常勤講師 服部 敬史 氏
第2回 12月17日	近現代	市史編集専門部会近現代部会長 専修大学文学部教授 新井 勝紘 氏
第3回 12月24日	近世	市史編集専門部会近世部会長 東京大学名誉教授 藤田 覚 氏

申込方法：往復はがきに「新八王子市史」と住所・氏名(ふりがな)・電話番号、返信面の宛名を書いて、〒192-0082 八王子市東町5-6 学習支援課まで(11月20日必着)

■ 八王子の自然を学ぶ ■

市史編さん室では、広く市民の皆さまに市史編さん事業について知っていただき、八王子の歴史や自然に対する理解を深めていただくきっかけとなることを目的として、生涯学習センターとの共催で市民講座を開催しています。本年度は『新八王子市史』自然編の刊行に先立ち「八王子の自然を学ぶ」と題し、下記のテーマで『新八王子市史』の調査でわかった八王子の自然について学びます。

日 程：平成26年2月7・14・21日

全3回(毎週金曜日)

時 間：午後6時30分～8時30分

会 場：生涯学習センター

クリエイイトホール5階 ホール

対 象：どなたでも(要事前申込)

定 員：230名(応募多数の場合抽選)

受講料：無料

日程	テーマ	講師
第1回 2月7日	八王子の植生 について	市史編集専門部会自然部会委員 横浜国立大学名誉教授 奥田 重俊 氏
第2回 2月14日	八王子の哺乳類 について	市史編集専門部会自然部会委員 中央大学附属高等学校教諭 岡崎 弘幸 氏
第3回 2月21日	八王子の昆虫 について	市史編集専門部会自然部会委員 東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員 須田 真一 氏

申込方法：往復はがきに「自然」と住所・氏名(ふりがな)・電話番号、返信面の宛名を書いて、〒193-0943 八王子市寺田町1455-3 八王子市市史編さん室まで(1月15日必着)

「いちょう塾」に講座を提供しました

市史編さん事業では、八王子の歴史や自然、民俗などに関するさまざまな資料を収集し、調査・研究を進めています。その中には、現在、そして今後のまちづくりを考えるうえで、役に立つ情報が多く含まれています。市史編さん事業における成果を、市民の皆様と共有し、今後のまちづくりに活かしていくため、八王子学園都市大学『いちょう塾』に下記の講座を提供しました。

日程	テーマ	講師
4月27日～8月24日(全5回)	街道から考える八王子の歴史 ～「地誌」と「地図」を手がかりにして～	市史編さん研究協力員 多摩地域史研究会会員 馬場 喜信 氏
6月29日	ハチオウジアザミの自然学 ～多摩丘陵における新しい生物種の発見とその意味について考える～	市史編集専門部会自然部会委員 長池公園園長 内野 秀重 氏
7月27日	八王子の考古学史 ～先人に思いをはせる…その情熱と苦闘そして感激～	市史編集専門部会原始・古代部会専門調査員 創価大学非常勤講師 服部 敬史 氏
9月21日	八王子の年中行事 ～由木の民俗から～	市史編集専門部会民俗部会委員 國學院大学文学部兼任講師 入江 英弥 氏
9月21日	地域の民俗文化をどう捉えるか ～いくつもの民俗の分布の様相から八王子地域を考える～	市史編集専門部会民俗部会委員 相模原市立博物館学芸員 加藤 隆志 氏

専門部会の主な活動

平成24年9月から25年7月まで

原始・古代部会

平成24年度は資料編刊行にむけて校正・資料確認、全編カラー版であるため図面確認・色校正にも力を入れました。3月には『資料編1 原始・古代』を刊行することができました。この成果を活かしながら、縄文・弥生・古墳・奈良平安の各時代担当部会委員が4週連続市民講座を担当し、多くの方々にご参加いただきました。

昨年度より通史編の目次検討、原稿執筆も進めています。9月以降、部会会議を8回開催し、内容の検討を行ってきました。また、講師を招いて多摩郡の十郷と川口・小野郷、放射性炭素年代測定、安閑紀に関する検討会も開催しました。7月には掲載写真の撮影で市内を巡検しました。今後とも写真の収集、内容検討会を行っていきます。

中世部会

資料編刊行に向けた資料調査を進めました。平成24年11月3日 高尾山薬王院所蔵資料調査(～11日)／11月17日 山形県米沢市成島寺八幡神社、堂森善光寺、米沢市上杉博物館所蔵資料調査(～19日)／12月9日 仙台市博物館所蔵資料調査／12月11日 高尾山薬王院所蔵資料調査(～19日)／平成25年2月12日 寒川文書館所蔵資料調査／3月11日 市内井出家所蔵資料調査／3月14日 信松院所蔵資料調査／4月22日 市内小松家所蔵資料(石塔)調査／6月1日 神奈川県公文書館所蔵資料調査／6月14・28日 東京都埋蔵文化財センター所蔵資料撮影／6月17日 永林寺所蔵資料調査／7月4・18・25日 八王子市埋蔵文化財整理室他所蔵資料撮影／7月10・17日 智山伝法院所蔵資料調査／7月28日 市内渡辺家所蔵資料調査

※またこの間、継続して市内所在石塔(五輪塔・宝篋印塔)・金工品の調査を行いました。御協力頂いた市民の皆様に御礼申し上げます。

近世部会

昨年度に刊行予定であった『資料編3 近世1』を2013年3月に刊行することができました。本年度は『八王子市史叢書 検地帳集成』を刊行するために、資料の選択を行い、入稿原稿を作成しています。

叢書の編集作業と並行して、『資料編4 近世2』に向けた資料調査をしています。次の資料編では、養蚕などを中心とする産業や、寺院・神社に関する資料に焦点を当てていく予定です。現在、そうした資料を中心に資料の所在調査、整理を進めています。部会会議は7回開催しました。

近現代部会

近現代部会では、2冊目の刊行となる『資料編6 近現代2』の章構成の検討、資料選択を進めています。『資料編6 近現代2』は八王子市内外の私文書も含めた資料編と考えています。『資料編6 近現代2』の編さんを進めるにあたって、明治前期、明治中期から昭和初期(都市部)、明治中期から昭和初期(農村部)、戦中戦後復興期、現代の5つの時期区分ごとにチームを分け、定期的に研究会を開催し、それぞれの時代に応じた章構成および資料選択を進めています。部会会議は7回開催しました。

民俗部会

民俗部会では、平成25年度に『八王子市史叢書 聞書 織物の技と生業(仮題)』を、平成26年度に『新八王子市史民俗調査報告書 第3集 八王子市西南部地域 浅川の民俗』を刊行予定です。現在は、叢書の編集作業に加えて浅川地区の調査も行っております。同地区の実踏調査や南浅川町で合同調査を行うなど、社会生活、生産・生業、住環境、衣食、年中行事、人生儀礼、信仰、祭礼、芸能、口承文芸など多岐にわたって聞き取りし、多くの方々にご協力いただきました。

部会会議は5回開き、報告書および本編刊行のための議論を重ねています。そのほか『八王子の民俗ノート』1号と2号を刊行、調査で得られた情報や今後の計画などを報告しております。

今後は、『浅川の民俗』原稿執筆に入ると同時に、次の調査地区である加住地区についても調査を行っていく予定です。

自然部会

自然部会では、平成25年度に『新八王子市史 自然編』を刊行する予定です。現在、刊行に向けた作業を進めています。原稿の整理を終えたところで、図版のレイアウトを行い、各分野(地質、気象、古生物化石、植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、貝類、昆虫類・クモ類など)ごとに、詳細な確認作業をまいりました。市民の皆様がより理解しやすい内容とするために、原稿内容の修正や変更、写真や図版の追加、差替えなども行いました。また、平成27年度に刊行予定の『八王子市史叢書 八王子の動植物目録(仮題)』について、検討する会議も行いました。部会会議2回、編集会議4回、そのほかに分野ごとの打ち合わせを必要に応じて行いました。

受贈図書・資料

平成24年8月16日から25年8月15日まで

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

- 【個人】 縣敏夫 阿川雅俊 畔上能力 池上裕子 石川太郎 石川博司 伊藤壽昭 乾賢太郎 牛尾征治 小儀良子 及川良彦 粕谷和夫 河村大樹 木内基容子 梶國男 黒尾和久 小林謙一 櫻井彦 佐藤春洋 佐藤秀文 佐藤広 澤井榮 神かほり 鈴木直樹 渋谷秀芳 関和彦 滝本光康 立川秋雄 西村輝成 沼謙吉 服部敬史 花里孝子 原田忠雄 深澤靖幸 穂坂敏明 増沢航 町田卯兵衛 松宮兼房 光石知恵子 宮崎賢一 渡部恵一 (敬称略・50音順)
- 【機関】 青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ 石川町教育委員会・町史編纂室 伊勢市総務部総務課市史編さん係 宇治市歴史資料館 大野市史編さん室 越生町教育委員会生涯学習課(文化財)担当 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻 川口市教育委員会文化財課中青木分室 環境局自然環境部計画課 木更津市教育委員会教育部文化課 杏林大学外国語学部 熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室 高知市総務部総合政策課 五霞町教育委員会生涯学習グループ 古河歴史博物館 小平市企画政策部市史編さん担当 相模原市立博物館市史編さん班 相模原市立博物館市史編さん班(津久井町史担当) 佐倉市総務部総務課市史編さん担当 さくら市ミュージアム荒井寛方記念館 札幌市総務局行政部文化資料室 寒川文書館 シルク博物館 精興社 仙台市博物館市史編さん室 相馬市教育委員会生涯学習課市史編さん室 高尾山薬王院 立川市歴史民俗資料館 館林市教育委員会文化振興課市史編さんセンター 多摩市教育委員会教育振興課文化財課 たましん歴史・美術館歴史資料室 千葉県立関宿城博物館 地方史研究協議会 東京都埋蔵文化財センター 所沢市教育委員会教育総務部生涯学習推進センターふるさと研究グループ 豊島区郷土資料館 戸田市立図書館・郷土博物館 栃木市教育委員会事務局文化課 (株)乃村工藝社 藤岡歴史民俗資料館 ふだん記雲の碑グループ 長崎市総務局企画財政部市史編さん室 長野市公文書館 南山大学史料室 野田市総務部市史編さん担当 八戸市立図書館市史編纂室 日野市郷土資料館 広島県立文書館 福岡市教育委員会総合図書館文学・文書課資料係 古河市三和資料館 NPOフュージョン長池(長池公園) 町田市立自由民権資料館 まちなみ整備部区画整理室 南相馬市教育委員会文化財課市史編さん係 都城島津邸 大和市文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当 横須賀市総務部総務課市史編さん係 横浜市資料室 (50音順)

〈地域からの声〉⑥

八王子市上恩方町 草木照義さん



8月のはじめ、上恩方町に草木照義さんを訪ねた。草木さんはかつて名主も務めた旧家に生まれ、現在はブルーベリー農園を経営している。この時期のブルーベリー農家は、収穫・加工に摘み取りへの対応と大忙し。周りからは、「一番暑くなる季節に忙しくなるブルーベリーをやるとは…」と言われることもあるそうだが、10年ほど前に、苗木を植えたところから始め、枝や花芽の剪定など手塩にかけて育て、毎年夏の収穫の時期に備えている。

そんな草木さん宅に伝わる「草木家文書」は、八王子市内でも有数の数量と質とを誇る文書群で、『八王子市史』や『新八王子市史』で利用されているほか、本誌でも紹介されるなどしている（藤田覚「史料紹介 朝鮮通信使と八王子の猪」本誌第3号、平成21年11月）。この古文書について、草木さんは「うちでは茶箱に入れて積んであったんだ。以前に大学の教授なんか調査に来たこともあったようだな。親父が見せていた記憶があるよ」と昔を語る。現在では、市の郷土資料館に寄託をして、虫害や傷みが進まないように保存管理をしている。また草木さん自身も、古文書を読んでみたそうだが、そのきっかけは、自宅に伝わる古文書を読んでいた近くの人から、「古文書を持っているのに字が読めないのか！と言われたことなんだ」と笑う。この時「よし！」と一念発起した草木さんは、市内の古文書解読サークルに入り、解読の勉強を始めたという。草木さん曰く、「いくらか、目が覚めたんだな」。

ところで上恩方町には、工房「兵部ひょうぶの里さと」がある。中では草木さんの奥様が、地元産の野菜や果物を使い、ジャムやこんにやくなどを作っている。この古風な「兵部」なる名前、実は草木家の先祖に当たる人物と、古文書などで伝わっている。草木さんは「先祖の名前を付けたいと思ったんだ」と笑う。きっと草木さんは、古文書の内容を解読しただけではなく、そこから恩方に生きた先祖の息遣いを感じ、地元の食材を扱う工房に名付けたのだろう。

私たちが草木さんのお話を聞き終わった頃、ブルーベリーをかごいっぱい収穫した来園者が、計量と精算にやってきた。草木さんは「はいよ！」と立ち上がると、てきぱきと対応を始めた。さりげなく、かごの重量を引く配慮も忘れない。そこに、やがて草木家文書を受け継ぐことになる息子さんやお孫さんもやってきて、偶然にもご家族が勢ぞろいし、採れたてのブルーベリーを前に、草木家一家談笑のひとつときとなった。

最後に、「どんな市史にして欲しいですか？」と草木さんに伺うと、しばらく考え込んだ後に、「市史は難しくなく、わかりやすくだな」と破顔一笑、明快な答えが返ってきた。市内に遺された古文書は、決して偶然残ったものではない。歴史の中で代々生活を営んできた、地域の人々の努力のもとに守られ、今に伝わっている。暑い夏の一日、草木さんのお話と笑顔に、八王子に生きてきた「ひと」の歴史を見たような気がした。

(市史編さん室主任・学芸員 渡部恵一)



チャレンジインターンシップから学んだこと

早稲田大学大学院文学研究科日本史学コース 修士課程1年 水谷 啓太

行政と歴史学の関わりについて知りたい、また、実際の歴史資料にふれてみたい、という思いから、今回、チャレンジインターンシップに参加しました。私は現在、大学院で日本史学を学んでおり、普段自治体史の成果を利用させていただいています。しかし、実際に編さんの現場を見学したことはなかったため、地元八王子市のインターンシップに参加し、経験を積むことにしました。

初日は、朝礼の後、ガイダンスを受けました。ガイダンスの内容は、市史編さん事業の基本的な考え方でした。ここで、市史編さん事業が、「市民との協働」によって行われていることを初めて知りました。その後、燻蒸資料の整理を行いました。資料の多くは市民の方から借用してきたものだそうです。先のガイダンスで、編さん事業は行政だけでは限界がある、と聞いており、多くの資料を市民の方から借用しているということからも、そのことを痛感しました。午後は、郷土資料館を見学しました。郷土資料館を訪ねるのは小学生以来でした。職員の方から展示の内容について解説していただいたため、八王子市の歴史に関して、今までとは違った見方で見学することができました。

2日目は、収蔵庫整理と封筒書き・目録作成を行いました。収蔵庫整理において、資料が入れている封筒一つひとつに番号が付いているのですが、私は最初そのことに気づきませんでした。その際、職員の方から、資料の封筒一つひとつに番号が振られており、順番通りに箱に入れなくてはならないことを教えていただきました。やはり、どんな資料であっても市民の方々から借用したものであるため、大切に扱わなくてはならないからです。また、収蔵庫を整理して限られたスペースを有効活用する、ということの大切さも同時に学びました。その後、封筒書き・目録作成を行いました。市史編さん専門員の方から、資料整理の概要を教えてください、作業に入りました。作業で扱った資料は、近現代の資料でした。実際に市民の方から借用した資料にふれ、ここでも市史編さん事業は「市民との協働」であると感じました。市民の方から資料をお借りすることによって、多くの人々の声を記録することができることも、市史編さんの有意義な点であると思いました。

私は、このインターンシップを体験するまでは、自治体史の成果を何気なく利用していましたが、インターンシップを通じてその考えが変化しました。市史編さんにこれほど多くの職員、市民の方々関わっているとは、想像していませんでした。実際に、市民の方から借用した資料にふれ、どんな資料であっても大切に扱うことを学ぶことができました。これまで自治体史編さんは行政が主役となっていくものである、という考えを持っていましたが、やはり市民の方々の協力なしには、編さん事業が成り立たない、ということが今回のインターンシップを通じて一番強く感じたことでした。最後になりますが、受け入れていただいた市史編さん室の職員の方々には篤くお礼申し上げます。二日間、ありがとうございました。

(みずたに けいた)



職員の異動

【転入等】

(平成25年4月1日付)

穂坂 敏明(室長) 生涯学習スポーツ部参事
(図書館担当)兼八王子市図書館長より

齋藤 和仁(次長) 市史編さん室主幹より昇任

鈴木 直樹(市史編さん専門員) 新規採用

佐藤 麻里(市史編さん専門員) 新規採用

(平成25年4月15日付)

齋藤 義明(主任) こども家庭部児童青少年課主事より昇任

【転出等】

(平成25年4月1日付)

木内基容子(室長) 総合政策部長兼政策審議室長へ

(平成25年3月31日付)

大木 悠佑(市史編さん専門員) 任期満了に伴い退職

歴史の窓 ⑪

聞き取り調査からたどる近世の洪水

市史編さん専門員 鈴木 直樹

市史編さん室では、市史編さんに関する史料調査のために、地域の史料所蔵者のお宅にお邪魔してお話を聞く機会が多くある。なかでも、市内大塚に住む西川誠二さんから伺った話は印象的であった。

「小さいころには、大栗川があふれて田んぼに砂が入ったり、魚が水たまりにいて、それを捕まえたものだ」

西川さんのお話は、現在の宅地化が進んだ大栗川周辺の風景からは想像もできないものであった。

大栗川は昭和41年(1966)の台風4号により2度氾濫し、大栗川・太田川・乞田川の3河川合わせて氾濫面積76ha、浸水家屋1,211棟という大きな被害をもたらした。こうした洪水被害や多摩ニュータウン開発の展開もあって、大栗川水系は昭和43年より本格的な改修工事が行われ、現在の河川景観へと変わっていった。図1が現在の河川の流路である。下流に早く水を流すため、河道が直線的になっている。改修以降の大栗川では、大きな洪水は起こっていない。

では、それ以前の川の様子はどうのようものであったのだろうか。図2は明治初年の大塚村(現、大塚)周辺の地図である。この地図からは、大塚村周辺で大きく蛇行している様子が見て取れる。本年3月に刊行された『新八王子市史』資料編3 近世1の口絵写真には近世後期の大塚村絵図が掲載されており、村の中央を蛇行した大栗川が流れている様子がうかがえる。西川さんのお話では、蛇行している箇所から水があふれ、耕地に砂が入り被害をもたらしていたようである。

近世の古文書からも、大栗川の氾濫を示す史料が散見される。大塚村では、明和7年(1770)に大栗川洪水により田畑に被害が出て領主の検分を受けている。その際の被災耕地の合計は2町2反9畝10歩(約22,709㎡、東京ドームの約半個分)であった。隣村の中野村(現、東中野)では、宝暦5年(1755)に大栗川が氾濫、土手が決壊し田地に砂が流入して大きな被害が出た記録が残されている。現在のように改修する以前の大栗川では、数年に一度は水があふれ、少なからず被害を与えていたようであった。

こうした洪水被害は大栗川に限ったことではなく、八王子市内を流れる多くの河川流域の村々で見られるものである。

近年、異常気象とも言える豪雨による冠水や洪水などにより、全国では多くの被害が出ている。現在は整備された大栗川をはじめとする八王子の川でも、河川氾濫は絶対に起こらないとは言えないだろう。近世の古文書は、過去の洪水被害の様相を示し、ともすれば油断してしまう私たちに洪水災害への警鐘を鳴らしているのかもしれない。こうした記録を次世代に残すことは私たちに与えられた課題の一つである。

今回は史料調査の過程でお聞きした市民の方のお話をきっかけとして、古文書を調べた結果、近世の洪水被害の実態を見ることができた。今後も、実際に地域に住んでいる市民の皆さんのお話を聞き、古文書などの過去の記録を合わせ見ることで、充実した市史刊行に邁進していきたい。

(すずき なおき)

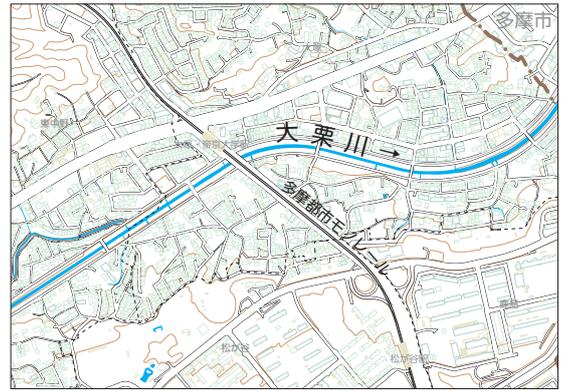


図1 大栗川の現在の流路(矢印は川の流れる方向)



図2 明治初年の大塚村周辺(図1と同位置)

財団法人日本地図センター発行・明治前期測量2万分1フランス式彩色地図 東京都町田市北部地区541